

地震工学会

津波等の突発大災害からの避難における諸課題に対する工学的検討手法およびその活用に関する研究委員会

第1回研究委員会 議事録（案）

1. 日 時：2016年6月24日（金） 15：00～18：00
2. 場 所：日本大学理工学部駿河台キャンパス5号館523会議室
3. 出席者：甲斐、奥村、後藤、佐藤、末松、仲村、村上（H）、山本
4. 資 料：
 - 資料 1-1 第19回研究委員会 議事次第
 - 資料 1-2 委員会名簿
 - 資料 1-3 委員会企画資料
 - 資料 1-4 内規(案)
 - 資料 1-5 予算に関する資料
 - 資料 1-6 委員公募 HP
 - 資料 1-7 中土佐町久礼地区の津波防災訓練への提案
 - 資料 1-8 津波避難に関する文献リスト
5. 議事内容：
 - 5.1 自己照会
 - ・ 出席委員から自己紹介があった。
 - 5.2 委員会の趣旨説明
 - (1) 提案者の甲斐委員から委員会の趣旨説明がされた。
 - ・ 津波避難の適格性を客観的な指標で明示できるようにしたい。判定対象の単位は従来の地域よりも狭い範囲で個別の施設単位を考えている。
 - ・ 津波対策として高台移転だけでなく、鉛直避難の容易さ、避難経路の確実性等を定量的に評価して、対策の判断材料として使えるようにしたい。
 - ・ このためのツールとして津波避難シミュレーションの実用性を高め、社会に有効性を認識してもらいたい。
 - ・ 津波避難シミュレーションにおいて、人間行動の心理的な側面は対象をせず、客観的な評価が容易な物理的な側面に絞りたい。
 - ・ 建築の RC 構造では実験、解析ツール開発、ツールの利用者間の情報の伝達が明確になっており、安定したシステムとして定着している。津波避難シミュレーションにおいては、実態調査、ツール開発、津波避難シミュレーションを利用した対策検討がばらばらに実施されている印象があり、情報の伝達を明確にしたい。
 - ・ 津波避難シミュレーションのベンチマークテストの標準的なデータセットも作りたい。
 - (2) 提案に対する意見やコメント
 - ・ 津波避難についてさまざまな調査が実施されているが、実態の把握には限界がある。ビッグデータを使えば精度向上を期待できるが、非公開である。
 - ・ 避難訓練をドローンで記録し、津波避難シミュレーションの検証に使うことを計画している。

- ・ 津波避難シミュレーションで明確にできることは、異なる条件のシミュレーション結果の相対的な比較に限定されるのではないか。
- ・ 実態調査の現状と限界を把握する必要がある、たとえば資料 1-8 の文献の整理からはじめることが考えられる。

5.3 内規（案）

- ・ 内規（案）について全委員にメールで意見照会をし、確定する。

5.4 役員の選任

- ・ 甲斐委員が委員長に選出された。
- ・ 甲斐委員長から、副委員長に仲村委員、幹事長に山本委員、幹事兼津波避難部会長に佐藤委員、幹事兼シミュレーション普及部会長に堀委員が指名された。

5.5 その他

- ・ 報告書の印刷費、報告会の経費、中土佐町への旅費が必要であるが、JAEE の予算だけでは厳しい。甲斐委員長から外部の研究助成金応募を検討しているとの説明があった。
- ・ HP に委員公募を出しているが現在のところ応募者はいない。前委員会の委員で意思表示のない方については、あらためて意思確認をする。
- ・ 委託状が必要な委員には申し出てもらう。
- ・ 次回委員会は、9/12（月）16:30～18:30 日大で開催する。主な議事内容は、委員会研究計画、津波避難調査の文献整理方針の検討。

以上